令和６年度 第１回 介護保険運営協議会議事録（要旨）

開催日時　令和６年 10 月 10 日（木）午後１時 30 分から午後２時 45 分
開催場所　胎内市役所　３階　301 会議室
出 席 者
【委　員】阿彦委員長、千野副委員長、奥村委員、久保田委員、春木委員、
宮下委員、緒形委員、菅原委員、堀川委員、西村委員（10 名）
（欠席）　皆川委員、矢部委員、傳委員、柳沼委員（４名）
【事務局】福祉介護課：金子課長、河内係長、近係長
【関係者】健康づくり課：西村係長

１　開　会
２　委員長あいさつ
３　自己紹介

４　議題
（１）介護保険運営状況について【報告事項】

事務局から資料１に基づき説明を行い、以下の質疑があった。

委　員　介護認定率が下がっているが、紙おむつ券の交付状況はどうか。紙おむつ券の交付の制度継続を望む声がある。
事務局　紙おむつ給付対象人数は横ばい傾向である。この制度の周知が進み、真に紙おむつを必要とする方に利用していただいているものと捉えている。
この事業については、現在、国の地域支援事業の任意事業として位置づけられ交付金を財源として充てているが、今後対象外となるため、支援のあり方等についてご意見を伺う機会を設けさせていただく。

事務局から資料２に基づき説明を行い、以下の質疑があった。

委　員　介護認定率は、介護認定者数÷被保険者数で算出しているのか。
事務局　そのとおりである。

委　員　介護保険料の滞納整理は、負担の公平性を保つ意味でも重要であるため、引き続き実施されたい。
事務局　介護保険は社会全体で負担を分かち合う、支え合いの制度である。滞納した場合の給付制限などもお伝えしながら、引き続き滞納整理にあたる。

委　員　サービス別の保険給付費について、本市の地域密着型サービスの受給者１人当たりの月額が、国県より高いのはなぜか。

事務局　地域密着型サービスは、施設などの規模が小さいことから、利用者のニーズにきめ細かく応えることができるといった特徴があり、種類としては、通所型・訪問型・宿泊型などがある。本市にはグループホームや地域密着特養といった宿泊型の施設が多いことが、国県より高い要因になっているものと捉えている。

事務局から資料３－１、資料３－２、資料３－３に基づき説明を行った。質疑はなかった。

（２）第９期介護保険事業計画の進捗状況について【意見聴取事項】

事務局から資料４に基づき、介護サービスの安定した供給に必要な介護人材の確保、働きやすい職場、魅力発信などの説明を行ったのち、２名の委員から情報提供をいただいた。

委員①　介護職員数は、退職者と比較して、新採用が少ない状況が続いているため、やや減少傾向である。職員の年齢層で一番多いのが 40 歳代、続いて 60 歳代。20 歳代はわずかであり、新採用職員の定着率が低いことが課題だ。
専門学生の実習を受け入れている。実習の受入から採用につながった事例もある。介護の魅力度を上げていくこと、介護の仕事を理解してもらって、将来の就きたい仕事に選んでもらいえるようにしていきたい。
ベテラン職員は離職が少なく、安定したサービス供給には欠かせないが、介護のやり方などが固定化しがちで、変化を好まないといった一面もある。例えば介護現場におけるＩＣＴ化。これからは働きやすい職場環境づくり、若年層の方に選んでもらえる施設になっていくにはＩＣＴ化が必要不可欠だ。
外国人の介護職員の採用については、住む場所や職場の環境整備、宗教や言語などの理解が必要となるため、現状として動きはないが、介護業界での人手不足の加速を考えると、検討していかなければならないものとは考えている。

委員②　介護職員の平均年齢は 54 歳。下が 30 歳代、上が 70 歳代で全体的に高齢化してきている。正職員のほかに、介護や子育てをしながらのパート職員が多くいるため、シフトを組むのが難しい。現在、退職を希望している 65 歳以上の方がいるため、職員を募集しているが、なかなか応募がない。このままでは介護サービスを提供できなってしまうことが懸念される。工夫して乗り越えたい。
市内の小中学校や高等学校の福祉教育に関わっている。児童・生徒と話をすると、福祉関係の仕事を携わっているお父さんやお母さんが意外と多く、福祉に興味・関心がある子どももいることがわかる。介護の仕事は、お年寄りにやさしい気持ちで接して、やりがいのある仕事なんだということを伝えている。

続いて、以下の質疑・意見があった。

委　員　介護職員の方とかかわらせていただくことがあるが、魅力というより大変さがすごく目につく仕事だと思う。訪問介護の利用者から、介護職員はいつでも来

てくれるという話をきくことがある。介護職員の方も、家族はあるし、夜間の呼び出されるとも大変だなと思っている。

委　員　訪問介護を従事していたことがある。介護をされる側の身になって業務にあたるように教わった。介護は３Ｋ、きつい・危険・汚いが伴うと言われることがあるけど、訪問しているうちに、その家族や周りの方とのコミュニケーションが図られ、信頼してもらえるようになる。「誰かの役に立っている」「必要とされている」といったやりがい、充実感があった。会社勤めの経験もあるが、介護の現場でいろんなことを学ぶことができ、自分自身の成長につながった。

委　員　家族が訪問介護を利用していたが、本当にすごくよくしていいただき、日々安心して過ごすことができた。緊急時に備えて、24 時間体制をとっていただき、本当にありがたかった。病院だと感染対策で面会ができなかったが、自宅であればいろんな方に会うことができた。感謝している。

委　員　主人の両親が訪問介護でお世話になった。自宅での介護は、ヘルパーなしでは難しいのではないか。ニュースなどで、介護事業所の経営が成り立たないというようなことを知ると何とも言えない気持ちになる。大事にしていただきたい。また、外国人の人材の話だが、私の知っているベトナムの方は日本語上手で、すごく優しい。将来的に、外国人の方が介護の現場で働くことになっていくのだろうなと思う。

委　員　母親を自宅で介護している。介護をしていると、すごく悩むこともあるが、母親はまもなく 100 歳。いずれは我が身。しっかり介護していきたい。
介護については、様々な面ですごく興味があるが、何十年も全然進歩してないと感じる。国レベルで相当大きな改革がない限り、今後も暗い話ばっかりなってしまうのではないかと危惧している。

委　員　介護分野は、給与の水準が、他の業種と比べて低いと聞いている。給与が低いと、人が集まらない。また、以前 10 日間ほど入院したことがあるが、その時の勤務体制が大変そうだった。そういったことから改めていくことも、介護人材の確保にとって大切だ。

委　員　在宅訪問診療において、ヘルパーはとても大きい存在。被介護者の考え方とか、やりたいことは、普段接してるヘルパーや看護師、顔に近づけて聞いてくれる人にだけ本当のことを話してくれるもの。被介護者も家族もヘルパーを信頼している。また、日々の変化などを理解されてるのも介護職の方だ。

委　員　介護の現場も、ＩＣＴ化で随分楽にはなってくると思う。例えば、音声入力。すでに取り入れているところもあると思う。いいところをどんどん学ばせる。人材を流動させて、情報を共有していくといったやり方もある。

委　員　　介護人材の確保は、なかなか難しい。訪問介護の職員を募集しても応募がなければ事業はしぼんでしまう。デイサービスも、需要はあっても、運営体制が整わなければ、無理が無理を生む運営になる。いずれも職員が確保できる限り事業継続は可能だが、そうでなければ、どうすることもできない。そういう状況が目の前にせまってきてると感じることがある。

委　員　　世の中には、社会の役に立ちたいというニーズがある。介護はもう少し敷居を低くして､介護の中に気楽に入ってきてもらうことが大事｡例えば登録制とか、ワークシェアリングスポット介護みたいな、そういうもの。介護って結構いいなと思う人は増えるだとうし、介護の仕事をやってみたいという人も増えるのではないか。

事務局　　いただいた意見等は、事業の推進に活かしていく。
市民が、介護サービスを受けられる、受けたいっていうときに、介護サービスが提供できるようにしていくためには、介護人材の確保・育成は重要。
介護人材の養成講座を地元で開催すると集まりやすいのであれば、そういったことも検討していく。また、介護の職ってどういうものか、どういうところが魅力的なのかなっていうところも発信していかなければならない。

（３）その他

委　員　　民生委員は、介護に関する相談にのったり、必要としているサービスの情報を提供したりといった役割がある。ヘルパーや社協などに直接相談されるケースもあると思うが、民生委員の活動により、介護現場の負担が少なくなればと考えている。

４　閉会

次回の開催は令和７年３月を予定していることを事務局から提示し、閉会した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。

以　上